

## 国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（平成30年度第10回）議事概要

日 時：平成31年2月1日（金）10：00～11：15

場 所：国立がん研究センター 管理棟 第1会議室

出席者：中釜斉理事長、南砂理事、児玉安司理事、松本洋一郎理事、間野博行理事、北川雄光理事、小野高史監事、増田正志監事

欠席者：なし

### I. 前回（平成30年度第9回）議事録の確認

- ・前回議事録について了承。
- ・議事録署名人を児玉理事と小野監事に依頼。

### II. 審議事項

#### 1. 平成31年度計画（予算）の策定について

資料に沿って説明され、審議された。

##### 【主な意見等】

- ・がんの解明と医療推進に大きく貢献する成果はどのように評価するのか。
- ・プレスリリースで反響の大きかったものや、薬のシーズ開発、臨床試験が進んだものや、そのことで未来の医療が進むことが期待できるなどを中心に評価していく。

### III. 報告事項

#### 1. 全国がん罹患患者数等の公表について

資料に沿って報告された。

##### 【主な意見等】

- ・こういう統計は政策的に重要。がんという疾患を理解するときに、年間でおおよそ100万人が新規に罹患しており、いつかはがん罹患する可能性が非常に高いと直感で理解できる。それがただちに死亡に直結するものではなく、がんと共に生きていく姿も理解できる。
- ・年齢と人口動態を関連させて、このデータを整理したときにどういう傾向が出てくるのか。高齢化により罹患率が上がってくることが統計的にうまく表現できれば、どういう対策をとっていくべきかということも、データの中から出てくるのではないか。

#### 2. 政府の会議の状況等

資料に沿って報告された。

##### 【主な意見等】

- ・NCの今後の在り方の検討について、色々なことを勘案しつつ、全体をどうしていくかについても国立がん研究センターとしてリーダーシップを発揮すべき。
- ・都の「築地まちづくり方針」について、がんセンターが健康政策に関して大きな役割

を果たしうるという視点が表現されていないのは残念。パブリックコメントを含めたオープンな提言をしてはどうか。

- ・以前は、もう少し医療クラスターの議論があったと承知しているが、だいぶ内容が変わってきた。そのあたりも戦略的に考えただければと思います。
- ・医師の働き方改革については、今後、稼働をあげて平均在院日数を短くすることが求められている中で、これをやったときにどういうことが起こるのか、患者さんに対してどういう説明を出来るのかを含めて慎重にシミュレーションしていく必要があるのではないか。
- ・働き方改革と関連して、厚生労働研究班で、どこまでが応召義務かという議論をしている。応召義務は必要ないことにしてしまうと、医師の役割が矮小化されるので、地域システムで合理的に支えていく方向に変えていくべきという議論がされている。

### 3. 広報実績

資料に沿って報告された。

#### 【主な意見等】

- ・NCCオンコパネルに関しては保険収載に向けて着々と進み、また、ファンデーションワンも同時並行で、いわゆるコンパニオン診断としての申請もしていると思うが、これらのバイオ検査を実行できる仕組みが、ゲノム中核拠点、連携病院の枠組の中でしっかりと出来るのか、その辺の方向性はどうか。
- ・マンパワーとして足りない面と、どこでも出来る検査として行われると、その管理が困難になるという側面の両面があるということか。
- ・医療従事者の理解や、患者さんへの情報提供、カウンセリングなどの体制については、国立がん研究センターや中核拠点病院からすると、やはり連携病院については、支援しなくてはいけないのではないかと思う。

### 4. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

### 5. 12月分月次決算等

資料に沿って報告された。